



## 第1領域

# 「地球規模の多様な 環境問題解決の架け橋」

(地球温暖化対策と生物多様性保全等の連携の  
道筋を開拓)

この領域は地球温暖化対策と生物多様性保全のバランスを考えることを目的としています。

### 荒廃地における森の再生

<研究・活動名> 荒廃地の緑化によるCO<sub>2</sub>吸収とバイオ燃料生産の実証的研究

<代表者/団体> 早稲田大学人間科学学術院教授 森川 靖

(財) 国際緑化推進センター

世界的に、通常の植林活動では地域住民の継続的な便益がなく、植林地が持続しない例が多いなどの問題点が明らかになっています。

そのため、2009年1月にスタートした本プロジェクトでは、これまでのインドネシア・ロンボク島で経済面・環境面から最適な荒廃地利用システムの提案等を行ったという成果を踏まえて、インドネシア・南カリマンタンに活動の重点を移し、生物多様性に配慮した森林修復(緑の回廊)と環境教育などを展開しています。これらが、農耕困難な荒廃地の緑化、地域住民への持続的利益、環境教育に広く普遍化され、他プロジェクトを実施する際の具体的な指針となると期待しています。インドネシア国内の有力紙にも紹介されるなど、地域の期待も高まっています。(2009年1月より半年に1回の審査を受けて継続中)

### 伝統農法と市場を結び付け、生物の多様性を保全

<研究・活動名> Eco-certified Natural Rubber from Sustainable Agroforests  
in Sumatra, Indonesia

<代表者/団体> World Agroforestry Centre (ICRAF、国際機関)

Dennis P. Garrity, Director General

Komunitas Konservasi Indonesia-WARSI

ジャングル・ラバーから産出されたエコ認証つき「dark green rubber」は、環境にやさしいグリーンカー(エコ自動車)を中心とした潜在的な需要が見込まれるため、エコ認証の定着と活用によりスマトラの小規模ゴム生産者に経済的なインセンティブを付与し、絶滅の危機に直面している伝統的農法であるジャングル・ラバー農園の生物多様性保全を試みました。

インドネシアジャンビ州において実施。

(2010年6月で終了)



写真 上左：ナンヨウアブラギリの種子  
上右：住人要望ヒアリング  
中央：アフリカ・ブルキナファソで行なった  
バイオマス測定の実習  
下左：インドネシア・ロンボク島の調査地  
(全て森川プロジェクト)

## (第1領域 つづき)

持続可能な国内森林利用の方向性を探る

<研究・活動名>地球温暖化対策を念頭においた総合的な森林利用の方向性を探る研究

<代表者/団体>慶應義塾大学大学院政策メディア研究科教授 金谷年展  
NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク

我が国の森林は、その多くが人工林であり、森林利用が適正になされてこそ、生物多様性も保たれ、地域の豊かさにつながります。

本活動では、森林利用活動の阻害要因とその改善方法について明確にし、広く公開することによって、多くの関係者に問題の要点が理解され、マスメディアでの報道を促すことにより、日本の森林政策の流れを変え、企業、地域、行政が協力しあいながら、森林利用を進めていくことができる方向性を提案しています。

(2009年7月より半年に1回の審査を受けて継続中)

写真 左：ロンボク島西部の田園風景  
(森川プロジェクト)  
右：研究発表会  
(金谷プロジェクト)





## W-BRIDGE へのメッセージ



「環境はすべからく地域の問題である」といわれます。世界、日本の各所とそれぞれに異なった様相で、環境的課題が生まれます。ですから真の問題解決は、地域で地域の住民によってでしか達成できません。最近になって従来型の、分野で区切られ、その中で精緻化を求める従来科学の反省として Sustainability Science の考え方こそ社会における科学の新しい方法であるとの流れが出てきており、将来主流になると考えられています。

W-BRIDGE プロジェクトは、まさに今の世界で養成される科学を実地に進めるものとして大きな意味をもつものです。大学の知と住民の行動の組み合わせで社会改革をボトムアップで実践するというユニークな試みを見守っていきたいと考えています。

国立環境研究所特別客員研究員 西岡秀三さん

W-BRIDGE のロゴデザインを拝見したところ、このWとBの間に秘かに二重橋がかかっていることに気づきました。この二重橋の意味が相当に大きいことなのではないかと思われ、素晴らしいプロジェクトになり得るのではないかという期待感を持っています。

ブリヂストン、早稲田大学といった世界的に著名でそれぞれの歴史を持つ、この両者が協働した横断的なプロジェクトで、かつ市民の方々も引き込んでいくという壮大なプロジェクトということにも、驚きを隠せません。

W-BRIDGE で取り組む環境問題は、まさに多様性に富んだものであって、理論・研究だけでなく一つ一つの実践がベースになるものだと思います。市民の方々も交えるということで、企業と大学の連携が、一人一人の生活者の中に何か芽生えるものになっていくようなプロジェクトになることを期待しています。

(株)NHK エンタープライズ エグゼクティブプロデューサー  
松尾典子さん



### アドバイザー・ボード

W-BRIDGE には本プロジェクトの趣旨にご賛同いただいた各界の専門家から構成されたアドバイザー・ボードが設置されています。研究領域・研究成果に対して随時助言をいただき、活動内容に反映しています。

(敬称略、五十音順)

- 池上清子 (環境と開発途上国問題の専門家)
- 大橋 力 (文明科学研究所長 / 芸能山城組主宰)
- 小畑秀文 (東京農工大学長)
- 白井克彦 (早稲田大学総長)
- 西岡秀三 (国立環境研究所特別客員研究員 / IPCC メンバー)
- 原 剛 (早稲田環境塾塾長)
- 松尾典子 ((株)NHK エンタープライズ エグゼクティブプロデューサー)
- 三村信男 (茨城大学教授 / IPCC メンバー)
- 渡辺弘之 (京都大学名誉教授)